

■被害にあった時の対応

（複数回答、n=2346）

内閣府「若年層の痴漢被害等に関するオンライン調査報告書」から作成

とっさのことで何もできなかった

怖くて体が動かなかった

我慢した

混んでいて何もできなかった

体の向きを変えた

その場から離れた／逃れた

持っているもので加害者の行為をブロックした

振り返って加害者の顔を見た、にらんだ

加害者の手を振り払った

声を上げた

周囲の人に助けを求めた

加害者の手をつかんだ

その場にしゃがみこんだ

痴漢対策のアプリや防犯ブザーなど防犯グッズを使った

その他



特集
すいよう

電車内
n=93

周囲の人の対応により
痴漢が止まったか

駅構内
n=19

止まった
92.7%

止まら
なかった
7.3%

止まった
94.7%

止まら
なかった
5.3%

東京都「令和5年度痴漢被害実
態把握調査報告書」から作成

いま注目 アクティブ・バイスタンダー
行動する第三者

あつ
痴漢



痴漢や盗撮、ハラスメントを見逃さず、被害者を孤立させない「アクティブ・バイスタンダー（行動する第三者）」が注目されています。痴漢犯罪に対しては、加害の防止に大きな効果があることが、国や東京都の調査で明らかになっています。（日隈広志）

あなたの役割 防止に効果

内閣府の「若年層の痴漢被害等に関するオンライン調査（4日公表）では、16～29歳の10人に1人が被害に遭うなか、被害者は「とっさのことで何もできなかった」が42.7%、「怖くて体が動かなかった」が32.5%となり（複数回答可）、単純回答で「何もできなかった」が約半数の48.7%に上りました。他方、周囲の人が加害者に働きかけた場合、「痴漢行為が止まった」が54.3%になりました。

電車内と駅構内でのケースを調べた東京都の「痴漢被害実態把握調査（2023年12月公表）」では、周囲の人の対応で「痴漢が止まった」が、電車内で92.7%、駅構内で94.7%でした。周囲の介入に高い防止効果があることを示しました。

痴漢対策を国に申し入れる日本共産党の議員＝1月11日、参院議員会館



日本共産党の提案

日本共産党は、性暴力の根はジェンダー不平等の社会構造にあるとして、国がその根絶を政策目標に掲げるよう求めてきました。

痴漢対策に関しては、「痴漢ゼロ」を国と地方での政治の重要課題に押し上げました。受験シーズンなどには、被害防止の自治体要請で、第三者の役割重視を求めています。同時に、鉄道業者の対策強化、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターなど相談窓口の強化、包括的性教育、ジェンダー平等の推進などを求めています。

「行動する第三者」とは、性暴力やハラスメントが起きた時、また起きそうな場面で、見ているだけではなく、行動する人のことです。

痴漢の場合、目撃者が被害を確認し身の安全を確保した上で、▽加害者に「やめてください」と声をかけるなど直接介入する▽被害者の知り合いのふりをするなどして加害者の注意をそらす▽警察や駅員らに知らせて介入してもらう▽映像や音声、メモなどで記録を残す▽後から被害者に声をかけたり、通報を手助けする一などの行動があるといわれています。ただし、必ず行動しなくてはいけないということではありません。

国は「痴漢撲滅に向けた政策パッケージ」(23年3月公表)で、「痴漢は他人事ではない」「傍観者となってはならない」との基本認識を示し、今後は「被害を目撃した際にどうすることが望ましい行動の周知を図る」としています。



「行動する第三者」を紹介する動画（『性教育YouTuber』シオリヌのYouTubeチャンネルから）

